

平成28年1月21日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 兵庫県教育委員会

所在地 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

代表者職氏名 兵庫県教育長 高井 芳朗

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告を提出します。

1. 事業の実施期間

平成27年4月16日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ひょうごけんりついくのこうとうがっこう	ふりがな	まえだ てつお
学校名	兵庫県立生野高等学校	校長名	前田 哲男
ふりがな	あさごしりついくのちゅうがっこう	ふりがな	くろかわ かずひこ
学校名	朝来市立生野中学校	校長名	黒川 和彦
ふりがな	あさごしりつあさごちゅうがっこう	ふりがな	おだがき しんご
学校名	朝来市立朝来中学校	校長名	小田垣 真吾
ふりがな	あさごしりついくのしょうがっこう	ふりがな	ふじわら まさとし
学校名	朝来市立生野小学校	校長名	藤原 雅俊
ふりがな	あさごしりつなかがわしょうがっこう	ふりがな	まつだ みつる
学校名	朝来市立中川小学校	校長名	松田 満
ふりがな	あさごしりつやまぐちしょうがっこう	ふりがな	まえだ ゆきお
学校名	朝来市立山口小学校	校長名	前田 由記夫

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

グローバル化に対応した教育環境づくりを図るため、小・中・高の連携を図りながら、英語教育の系統性のある教育課程の編成及び評価の在り方について実践研究を行う。また、小学校教員を含め、英語科教職員の指導力の向上を図る。

(2) 研究の概要

本市では長年にわたり国際交流に取り組んでおり、多くの子供たちがアメリカやカナダとの交流の機会を持っている。また、市で5名のALTを雇用しており、小学校でもALTと触れ合う機会が多い。

しかし、外国語活動が導入され英語に親しみを持って活動する児童は増えたが、文字指導等は行われなため、中学校との学習内容と十分な連携が図れているとは言えない。研究校である県立生野高等学校への入学者の8割を同じ研究校である朝来中学校と生野中学校の2校が占めているとはいえ、中学校・高等学校の連携が十分に図れているとは言えない。

そこで、小学校では外国語活動の開始学年の早期化、高学年における教科型の実施に伴う教育課程の編成による取組を推進するとともに、中学校・高等学校においては授業を英語で実施するなど英語の授業の高度化による「聞いて話せる」生徒の育成を図る取組を推進しながら、グローバルな視野を持つ人材の育成に向け、小学校3校、中学校2校、高等学校1校の連携を生かした系統性のある研究を推進する。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

一年次の取組を通じて、校種を越えた協働体制(小・中・高連携)に基づく研究授業の公開・参観、カリキュラムやCAN-DOリストの作成等に取り組むことができた。

その一方で、コミュニケーション能力の育成の観点を取り入れた小中高の系統性あるカリキュラムの再考、小・中・高の一貫性のあるCAN-DOリストの単元レベルでの作成、小・中・高の教師とALTが連携し、フォニックスについての系統性のある学習プランと指導法の研修推進等が課題として生じている。

一年次に構築した校種を越えた協働体制(小・中・高連携)のよさを生かしてさらに効果的な取組となるよう調査研究する。

②研究仮説

ア 小学校での外国語活動を3・4年生から導入し、5・6年生は教科型に取り組み、中学校の英語につなげる。小学校では専任の教員(英語教育コーディネーター)を配し、教育課程の編成、ALTとの共同授業、また中学校との連携に取り組ませる。中学校は、高等学校との連携を図り、授業を英語で行うなど、英語の授業の高度化を推進する。

イ 早期から英語に触れることで、外国語に親しみ、積極的にコミュニケーションのできる児童の育成が図れると考える。5・6年生については、文字やフォニックスの学習を通して、読むこと、書くこと、聞くこと、話すことのできる子供の育成を図る。また、中学校に入っても日本語による指示がなくてもおおよその意味が分かる子供たちの育成をめざす。中学校・高等学校においては、コミュニケーション能力の向上をめざし、英語で積極的に話すことや説明することができる子供の育成を図る。

③研究成果の評価方法

小学校・中学校・高等学校の児童生徒に対し、英語に対するアンケート調査を2回(6月・1月)実施し、意識の変容をつかむとともに、実用英語技能検定を積極的に受験させ、各級の合格率を研究成果の一指標として役立てる。

児童生徒個々の学習状況の把握のための「振り返り」場面の活用や、子供の頑張りや意欲の向上につながるパフォーマンス評価等の工夫・開発を行い、評価結果を基に、教育課程や指導方法についての検証を行う。

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第3・4・5・6 学年 1コマ	第3・4学年 1コマ	第3・4学年 1コマ	第3・4学年 1コマ
②小学校 教科型		第5・6学年 1コマ	第5・6学年 2コマ	第5・6学年 2コマ

(5) 研究計画

○ 第一年次～第四年次、校種別

(小学校)

一年次 3・4年生に外国語活動を週1時間導入し、外国語に触れさせるとともに外国語を使って表現する楽しさを味わわせること、及び、二年次より実施する5・6年生の教科型(英語科)の教育課程を編成することに取り組んだ。

英語の大切さを実感するとともに、意欲的に外国語活動に取り組もうとする姿や文字を手立てにコミュニケーションを取ろうとする姿が現れてきた。また、外国語活動を通して児童が学ぶ楽しさを体感することができた一年次であった。

3年生からのフォニックスの系統的な学習プランを作成し実践することや、「担任誰もが行うことのできる英語教育」の推進が必要である。

二年次 3・4年生は一年次と同内容で行う。5・6年生は一年次に計画した教科型(英語科)の教育課程を実施し、ローマ字と関連付けた文字の読み書きやフォニックスを導入し「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を付けていく。一年次においてコミュニケーション能力の段階(4段階)を設定し、それに即したカリキュラムの再編に取り組んだが、二年次においては実践を通じて中・高へつながる系統性を図る。二年次の教育課程に関する検証を行いながら、三年次から実施する週2単位時間の教育課程を編成する。同時に評価法について研究開発を行う。

三年次 3・4年生は一年次と同内容で行うが、5・6年生の教育課程との関連について検証する。5・6年生は週2単位時間の教科型(英語科)の教育課程を実施し、文字の読み書きやフォニックス指導を行い、ペアワークなどを取り入れながらさらに4技能の向上を図る。こうした取組を踏まえながら三年次の教育課程に関する検証を行うとともに、四年次での6年生を対象とした実用英語検定の取組について検討する。

四年次 3・4年生は一年次と同内容で行い、5・6年生は三年次に検証し改善した教育課程に基づいて4技能の向上をさらに図るとともに、研究発表会を実施し、その成果と課題を県内外に周知する。

(中学校)

一年次 1年生では小学校で行ってきた外国語活動の中で実施したゲーム等を活用しながら授業を行い、教科としての英語への抵抗感を軽減するとともに効果的な音声指導や文字指導への導入を行った。またフォニックス指導を行い、音と文字につながりを持たせていくことや、2・3年生については、授業を英語で実施し、授業の中でコミュニケーションの場面を多く取り入れて実践した。

こうした実践を通して、ペアワーク・グループワーク等に意欲的に取り組む生徒が増え、生徒自身が授業で英語を使う頻度が上がってきた。話すことや聞くことについて、少しずつではあるが力がついてきている。

二年次 1年生では小学校で指導を受けたフォニックス指導をさらに進化させ、新しく学ぶ単語についての発音の仕方を生徒に予想させながら獲得させていく。文法導入時には教師によるスキットなどを行い、英語による指導を行い、年間を見通して生徒同士が英語で会話をできるように指導を加えていく。2・3年生については、英語で授業を実施し、ペアワーク、グループワーク等において生徒同士での会話を多く取り入れ、積極的に表現する姿勢を身に付けさせる。小中の連携をより図り、連続性のある学習をいかに進めるか、また、中から高へのつながりを意識した連携の深化を図っていく。

三年次 1年生では、文法導入時には英語による教師のスキットなど、英語での指導を行い、年間を見通して生徒同士が英語で会話をできるように指導を加えていく。2・3年生については、英語で授業を実施し、ペアワーク、グループワーク等において生徒同士での会話を多く取り入れる。ディスカッション、スピーチなど英語で自己表現をし、自分の意見を言える姿勢を身に付けさせる。

四年次 1年生では、文法導入時には教師によるスキットなどを行い、英語による指導を行い、

年間を見通して生徒同士が英語で会話をできるように指導を加えていく。2・3年生については、英語で授業を実施し、ペアワーク、グループワーク等において生徒同士での会話を多く取り入れる。ディスカッションやスピーチを聞いて自分の意見を英語で言える姿勢を身に付けさせ、小中の教育課程のつながりを意識した研究発表会を実施し、その成果と課題を県内外に周知する。

(高等学校)

一年次 小学校、中学校での実績を踏まえ、単に日常会話が話せるということだけではなく、自分の意見を相手に伝え、相手を説得する力若しくは姿勢を身に付けさせる力の育成を目指した。二年次には中学校から本事業による指導を受けた生徒が入学することを見据え、円滑な移行を図るため、授業の最初に英語による1分間スピーチを取り入れるなど、授業の中で全ての生徒が必ず英語を発信する姿勢を培う取組や、授業は原則として英語で行い、ペアワーク、グループワーク活動等を多く取り入れ、生徒が授業で活発に英語を発信するというスタイルを通常とする授業展開を図る取組を行った。

ディベートについては、1年生の3学期から英語によるディベートの基本練習を導入した。ディベートは、読み、聞き、書き、話すという4技能を使う総合的な活動であり、指導に時間がかかることも考慮し、1年生においては、導入及び基本練習までの範囲とした。県のディベートコンテストには2年生を中心に参加した。

生徒個々に自己の考えを持たせ、中学校段階よりも話す内容の高度化を図る取組が今後の課題となっている。

二年次 中学校において本事業による指導を1年間受けてきた新入生への対応として、中高の指導の連続性を意識し、授業の中で全ての生徒が必ず英語を発信するという指導を徹底する。1年生の1・2学期では、コミュニケーション英語Ⅰの授業において、英語による1分間スピーチを授業の最初に1人ずつ行い、3学期からは、英語によるディベート指導を確立する。2学年では、段階的に英語によるディベート指導を行い、2年生の2学期末には、校内の英語ディベート大会を開催する。また、中学校段階よりも、話す内容の高度化を図り、時事問題、医療や福祉の問題等、生徒が異なる意見を持ちやすいトピックスを随時教材として扱う。

三年次 1年生の授業では前年度の指導をより徹底する。2年生においては、2学期末のディベート大会を校外にも公開し、小学校、中学校の教員にも参加を依頼する。また、県の高等学校英語部会主催の英語ディベート大会にも生徒を参加させ、意気を高める。英文読解を主とした授業においても、大意をすばやくつかみ、英語で要約する活動を多く取り入れ、英文読解と英語を話す活動を関連させた指導を開始する。

四年次 3年生において、読解した英文について意見を述べ合うディスカッション指導を導入し、実際に自分が考えたことを相手に伝え相手を説得しようとする姿勢を育てる。本事業仕上げの年度として、英語の授業において生徒が必ず英語を発信することや、1年生3学期から2年生において行った英語ディベート指導、英文読解とディスカッション活動を関連させた指導体制を完成させる。こうした取組を踏まえ、自分の考えを相手に伝え相手を説得する姿勢及び力の育成についての検証を行い、中高の教育課程のつながりを意識した研究発表会を実施し、その成果と課題を県内外に周知する。また、この事業の集大成として、実用英語技能検定や、TOEIC等の受験にも積極的にチャレンジさせる。

○平成27年度の進捗状況・課題

(小学校)

昨年度編成した教育課程について、実践検証を行い内容の再編や3年次から取り組む教育課程に「Wrap up lesson」を組み込み、週2コマの編成を行った。

指導者の指導力向上研修講座を開設し、事業実践と並行しながら研修を実施した結果、研修したアクティビティなどを効果的に活用した授業展開を身に付けた担任が主体的に授業を行える状況ができてきた。

また、3年生より Phonics を導入したことにより、児童の発音と聞く力が向上するとと

もに児童が積極的に話すようになってきた。6～7往復の会話ができるようになり、自分の伝えたいことを伝えようとしている。

教師が英語の授業を考え、その考え方が他の授業にも生かせるようになってきた。

課題としては、年度が変わり職員体制が変わってもこれまでの研究が途切れないような研修体制や研修プログラム等を確立していく必要がある。

(中学校)

授業において、ペアワークやグループワークを多く取り入れ、生徒自身が英語を使う場面を多く取ることに努めた。授業や休み時間など生徒が英語を話す時間が増え、休み時間もコミュニケーションを英語で行っている場面を見かけるようになってきた。英語嫌いが減り、授業を楽しんでいる生徒が多くなってきた。

小学校からの取組(Phonicsの効果)の連続性を図ることにより、生徒の発音がよくなってきた。また、授業での繰り返しの発話で、自然に英語を口にする生徒が増えてきた。

課題としては、アクティビティを多く取り入れた授業を展開することにより、文法指導や「書くこと」等に費やす学習時間が足りない現状がある。また、英語の授業は好きだけど、まだまだ書けない実態がある。

(高等学校)

中学校で1年間この事業に取り組んだ生徒が1年生として進学してきたばかりであり、まだまだ成果と言えるものが見られないが、授業中に全ての生徒が必ず英語で発信する指導の徹底を図っている。

また、小学校から取り組み始めたPhonicsを高校でも取り入れてみたが、これまで体験していない生徒が多く、高校でもPhonicsは効果的だった。より効果を上げるには、小学校等早い段階からの取組が望まれる。

英語によるディベートができる生徒を育成するために、物事の捉え方や自分の考えをしっかり持ち、それを組み立てて発話できる力の育成に努めてきた。

課題としては、授業の在り方と大学入試とのギャップがあり、コミュニケーション型な授業との兼ね合いが難しく、大学入試の改革が待たれる。保護者や生徒の不安感につながっている面もある。

(6) 評価計画

○ 第一年次～第四年次、校種別

(小学校)

一年次 外国語活動に対するアンケート調査(3～6年生対象、9月・1月)

二年次 外国語活動・英語科に対するアンケート調査(6月・1月)

三年次 外国語活動・英語科に対するアンケート調査(6月・1月)

ALTとのインタビューテスト実施(5年・6年対象)

四年次 外国語活動・英語科に対するアンケート調査(6月・1月)

ALTとのインタビューテスト実施(5年・6年対象)

実用英語技能検定への受験又は合格率(6年生対象)

(中学校)

一年次 英語に対するアンケート調査実施(9月・1月)。ALTとのインタビューテスト実施。英語技能検定への受験又は合格率。

二年次 英語に対するアンケート調査実施(6月・1月)。ALTとのインタビューテスト実施。実用英語技能検定への受験又は合格率。

三年次 英語に対するアンケート調査実施(6月・1月)。ALTとのインタビューテスト実施。実用英語技能検定への受験又は合格率。

四年次 英語に対するアンケート調査実施(6月・1月)。ALTとのインタビューテスト実施。実用英語技能検定への受験又は合格率。

(高等学校)

- 一年次 英語に対するアンケート調査実施（9月・1月）。ALTとのインタビューテスト実施。実用英語技能検定への受験又は合格率。
定期考査にリスニングテスト及びスピーキングテストを導入。中学校との効果的な連携を図るため、学習到達目標をCAN-DOリストの形式で設定し、中学校と共有する。
- 二年次 英語に対するアンケート調査実施（6月・1月）。ALTとのインタビューテスト実施。実用英語技能検定への受験又は合格率。
一年次に設定したCAN-DOリストにより目標達成状況を把握し、検証する。定期考査でリスニングテスト及びスピーキングテストを実施。実用英語技能検定及びGTEC等の受験の勧め。ディベートの評価への組入れ。
- 三年次 英語に対するアンケート調査実施（6月・1月）。ALTとのインタビューテスト実施。実用英語技能検定への受験又は合格率。
定期考査でリスニングテスト及びスピーキングテストを実施。CAN-DOリストを活用し、中学校とも連携しながら、指導と評価の一体化を図る。実用英語技能検定及びGTEC等の受験の勧め。ディベート、ディスカッションの評価への組入れ。
英語及び本事業に対するアンケート調査実施（7月）
- 四年次 英語に対するアンケート調査実施（6月・1月）。ALTとのインタビューテスト実施。実用英語技能検定への受験又は合格率。
定期考査でリスニングテスト及びスピーキングテストを実施。CAN-DOリストを活用し、中学校とも連携しながら、指導と評価の一体化を図る。実用英語技能検定及びGTEC等の受験の勧め。ディベート、ディスカッションの評価への組入れ。
英語及び本事業に対するアンケート調査実施（7月）
CAN-DOリスト及び外部検定試験等を活用した目標達成状況の把握と検証。

○平成27年度の進捗状況・課題

（小学校）

今年度から拠点研究校（3小学校）にALTを配置したことにより、外国人がいる空間で生活する機会が増え、児童がALTと楽しそうに話す機会が増え、パフォーマンステストについても大変前向きに取り組んでいる。

子供たちは、抵抗なく日本語英語から脱却し、リアクションも良くなって来た。

6年生のみを対象に英検 Jr を実施し、2年間の評価に生かす予定である。

課題としては、CAN-DOリストの検証と内容の系統性を取っていくことがあり、さらに、パフォーマンステストなどの評価方法の工夫・改善が必要である。

（中学校）

CAN-DOリストの系統性とレベルの連続性を取りながら、評価を深化させていく必要がある。意識的にコミュニケーションな授業を取り入れながら、コミュニケーション能力を高め、パフォーマンステスト等の工夫・開発に取り組んでいる。

小学校とのつながりを的確に把握しながら中学校のカリキュラムを編成し、系統性のある評価法や評価計画をカリキュラムに盛り込んでいく必要がある。

外部試験をどう指導や評価に活用するか今後の課題でもある。

（高等学校）

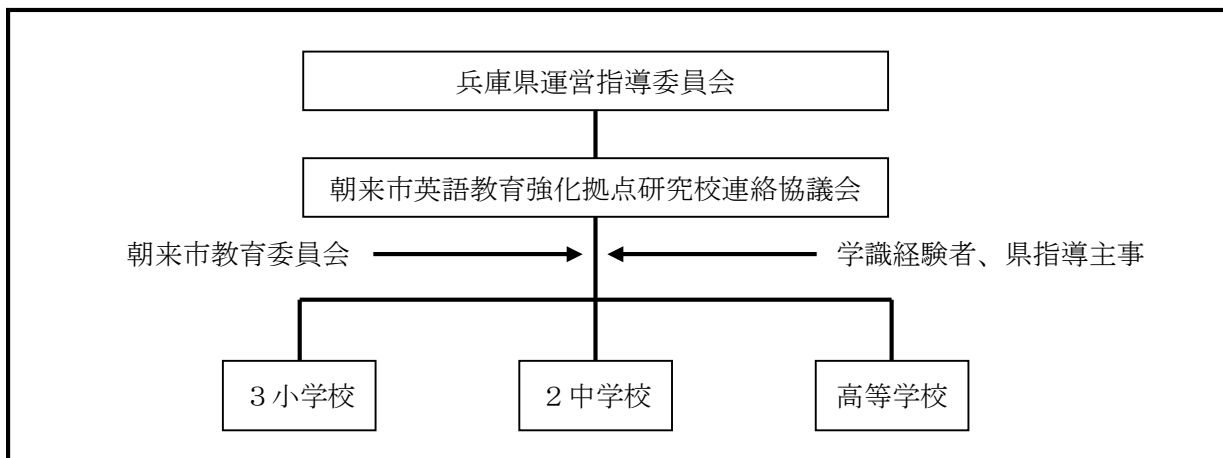
CAN-DOリストにより目標達成状況を把握し、その達成状況を検証するため、定期考査でリスニングテスト及びスピーキングテストを実施した。今後、CAN-DOリストの系統性をさらに図りつつ改善していきたい。

また、ディベートを授業に取り入れていくため、その評価をどうするか研究開発していかねばならない。

英語検定については希望者だけの受験であるが、受験希望者が徐々に増加してきており、自己の学習成果に関心を持つ生徒が増えてきた。本年度2回の英語検定に延べ36名が受験し、1級1名、2級2名、準2級5名の生徒が合格している。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



<兵庫県運営指導委員会>

学識経験者 2 名、行政関係者 4 名、学校関係者 4 名

<朝来市英語教育強化拠点研究校連絡協議会>

学識経験者 1 名、県指導主事 1 名、市指導主事 1 名、

管理職 3 名：3 小学校の代表 1 名 2 中学校の代表 1 名 高等学校の代表 1 名

教員 6 名：小学校 3 名（専任教員） 中学校 2 名（英語科） 高等学校 1 名（英語科）

朝来市教育委員会事務局 1 名 その他、教育委員会が必要と認める者

(2) 運営指導委員会

①活動計画

○ 活動計画

拠点地域における研究推進の進め方及び教育課程の編成及び評価について、現状を把握し、具体的な取組方法を示唆するとともに、成果の普及啓発の在り方について検討するため運営指導委員会を開催する。

年 3 回運営指導委員会を開催し、各校種の取組状況の現状を把握するとともに、アンケート調査、CAN-DO リスト、教育課程の編成及び評価規準、評価方法等の具体的な取組方法について検討し、研究校への指導助言を行う。

○ 平成 27 年度の進捗状況・課題

各校種で年 2 回のアンケートの実施、単元ごとの CAN-DO リスト作成、定期テスト、パフォーマンステストの統一性のための中学校間の連携の強化、担当教員だけでなく、担任全員が指導できるよう、校内研修を促進することを年度当初の委員会で確認した。年度末の委員会でアンケート結果分析や単元ごとの CAN-DO リスト等の確認を行う。

拠点校の教員による、県内の英語・外国語活動担当教員及び県の事業である大学と連携した英語指導力向上事業における研修受講者を対象とした公開授業を実施。全体会では、研究の概要や構想、各学校の取組等についての発表を行い、運営指導委員会委員長による指導助言を行った。

【公開授業実施校及び学年】

- ・朝来市立生野小学校 4 年生、6 年生・朝来市立中川小学校 3 年生、6 年生
- ・朝来市立山口小学校 3 年生、5 年生・朝来市立生野中学校 2 年生
- ・朝来市立朝来中学校 1 年生、2 年生・兵庫県立生野高等学校 3 年生選択授業

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	4/16 委託契約締結 小学校3・4年生の外国語活動開始 小学校5・6年生の教科型(英語科)の教育課程開始	4/27 文科省事業説明会
5月	5/12 第1回指導力向上教員研修会(3講座開設) 5/22 第1回英語科担当者・管理職合同会議 (文科省事業説明の報告、研究内容の確認、等)	
6月	6/9 先進地視察(直島小学校・中学校) 6/11・12・16 第2回指導力向上教員研修会(3講座) 6/25 第2回英語科担当者会 (文科省事業説明の報告・進捗状況確認等) 6/下旬～7/初旬 第1回アンケート調査実施(小3～高2)	6/12 第1回運営指導委員会
7月	7/10 第1回強化拠点研究校連絡協議会 7/22 第3回英語科担当者会 (アンケートの分析・進捗状況の確認及び情報交換) 7/29～31 第3回指導力向上教員研修会	
8月	8/25 第4回英語科担当者会 (CAN-DOリスト・教育課程の検証等) 8/5～7 第4回指導力向上教員研修会 8/10～12 イングリッシュキャンプ(中高生・ALT) 8/25～27 第5回指導力向上教員研修会	
9月	9/7 第5回英語科担当者会(進捗状況確認及び情報交換等)	
10月	10/5 講師招聘研修(生野小学校) 10/5 第6回英語科担当者会(進捗状況確認及び情報交換等) 10/6・8・9 第6回指導力向上教員研修会(3講座) 10/15 講師招聘研修(中川小学校) 10/26 講師招聘研修(朝来中学校) 10/30 全県授業公開準備会	
11月	11/5 平成27年度英語教育強化地域拠点事業強化地域拠点 研究校授業公開(小・中・高授業公開と研究発表等) 11/19 講師招聘研修(山口小学校)	11/5 第2回運営指導委員会
12月	12/3 講師招聘研修(中川小学校) 12/11 京都南丹市より視察受け入れ(山口小学校) 12/14・15 山口県光市より視察受け入れ(生野小・中・高) 第7回英語科担当者会(進捗状況・課題・次年度について) 12/12 英語クリスマスイベント(中高生・ALT) 12/下旬～1/初旬 第2回アンケート調査実施	
1月	～1/下旬 第2回アンケート調査の実施 1/21 全国連絡協議会参加(4名) 1/26 第7回指導力向上教員研修会	1/21 全国連絡協議会 1/26 第3回運営指導委員会
2月	2/4 県高校英語研究会における実践発表(朝来市の取組) 2/5 講師招聘研修発表会(中川小学校) 2/16 第8回英語科担当者会(三年次の取組の方向性等) 2/23 第2回拠点研究校連絡協議会(本年度の成果と課題)	

3月	3/月上旬第9回英語科担当者会（まとめと次年度に向けて）	
【その他の取組】※あれば記入 <ul style="list-style-type: none">・研究授業の公開を随時行う。（各校1回以上公開する）・英語外部検定の活用（小：英検J r，中・高：英検）・視察の受け入れ		